

### 地域医療とは？

—閉ざされた医療から開かれた医療へ—

院長 林 田 良 三

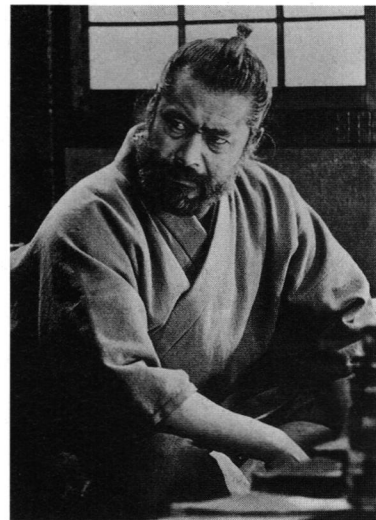
今回は最近よく耳にするようになった地域医療についてお話をしたいと思います。地域医療と聞くと多くの方が地方や田舎で行われる医療をイメージされるのではないのでしょうか。確かにへき地医療や農村医療など医療が行われる場所を表している言葉もあります。しかし、ここでいう地域医療とは医療を行う場所を示す言葉ではありません。地域医療とは医療のあり方を示す言葉です。患者さんの病気を治療することだけでなく、患者さんが暮らす地域社会に目を向けて、地域住民の介護、保健や疾病予防、時として生活にまで関わるより包括的医療が地域医療です。言い換えれば、地域社会に対して「開かれた医療」とも言えます。

地域医療の必要性が叫ばれるようになった背景として二つのことが考えられます。一つ目の背景は現代医学への反省です。医学は日進月歩で、かつて救えなかった命が救えるようになりました。一方で医療は病気にばかり目を向けるようになり、病気にかかっている人への配慮は置き去りにされました。かくして医療を行う病院は密室化していきました。言い換えれば地域社会に対して「閉ざされた医療」です。山崎豊子が生きた「白い巨塔」という小説は映画化もされ、多くの方がご存じかと思えます。大学病院の閉ざされた医療の闇を見事に暴き出しています。しかし、医療の原点は病気そのものではなく、病気にかかった人をなんとか救いたいという思いにあります。人に関われば、必然的にその人が暮らす地域社会に目を向けることとなります。山本周五郎原作の映画、「赤ひげ」の中で主人公の赤ひげこと新出去定がこのことを

象徴的に語っています。「病気の影にはいつも人間の恐ろしい不幸が隠れている」

二つ目の背景は日本で世界に類をみないスピードで進む超高齢社会です。高齢化率も低く、青壮年期の患者が多かった時代には診断して治療し、治癒させ、退院させれば医療は役割を終えていました。これがいわゆる「病院完結型」の医療です。しかし、人生100年時代などと言われ、75歳以上の後期高齢者が人口の5分の1近くを占めるような時代にあっては、疾病構造も変化しています。多くの持病を持った高齢者を病気と共存させながら、いかに生活の質を維持をしていくかが医療の大きな課題になっています。「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が求められているのです。このためには地域社会に目をむけ、医療施設、介護施設や行政とも連携して、地域の実情に応じた「地域完結型」の地域医療の構築が必要です。

済生会日田病院は地域唯一の公的病院として地域医療に貢献していく使命を担っています。医療の枠組みに捕らわれず、日田玖珠地域に開かれた地域医療の構築に尽力していきたいと考えています。



出典：「赤ひげ」1965年 東宝映画  
山本周五郎原作の「赤ひげ診療譚」を黒澤明監督が映画化。三船敏郎演ずる「赤ひげ」こと新出去定は今風に言えば、地域医療の実践者である。

